

本日のテーマ「福岡関連本」

実施日：2019年3月22日

福岡ってこんなところ

- 1 「福岡県民のオキテ」
たけただひで&いずみ/原作 谷中ツナ/漫画 2015年 KADOKAWA 【361.4】
東京出身の夫と大野城市出身の妻による「福岡あるある」のまんがです。
- 2 「これでいいのか福岡県」
岡島慎二、土屋コージン/編 2016年 マイクロマガジン社 【302.1】
福岡でも自分が住んでいる地域から離れると、どこにあるのかよくわからない地域ってありますよね。
- 3 「福岡穴場観光」
Y氏/著 2018年 書肆侃侃房 【291.9】
独特なテーマの資料館や不思議なお店、変わった神社仏閣……。ぜひぜひ園も紹介されています。



福岡のたべもの

- 4 「福岡の町中華」
2019年 ぴあ株式会社関西支社 【596.2】
知っているお店は、載っていますか？食べ比べをしてみませんか？
- 5 「博多うどんはなぜ関門海峡を越えなかったのか」
サカキシンイチロウ/著 2015年 ぴあ 【ビジ初673.9】
あのやわらかくてもちもちの食感をおおには40分もかかるといいます。某うどん店のシステムで東京に出店すると、うどん1杯2000円以上の値段になるらしい…。
- 6 「全国もなかぼん」
オガワカオリ/著 2018年 書肆侃侃房 【596.6】
→箱崎でパン屋さんをやります。 →福岡の出版社 薬院にカフェがあります。



福岡の方言

- 7 「ウィ・キャンスピーク福岡ことば」
小林由明/著 2014年 言視舎 【818.9】
子どもの頃、シソのこと「ギョー、いぼったん」と言ってきたよね？これは方言だよね。

糸島の奥島最中ものってあつた

福岡の歴史

- 8 「福岡県の幕末維新」
アクロス福岡文化誌編纂委員会/編 2015年 アクロス福岡 【L219.1】
幕末は福岡も激動の時代でした。福岡藩、小倉藩、久留米藩、柳川藩はどのようにして、明治時代を迎えることになったのでしょうか。
- 9 「神宿る沖ノ島 古代日本人が見えてくる」
堀田はりい/著 2018年 右文書院 【219.1】
沖ノ島の遺跡・遺物から、当時の祭祀や古代人の考えていたことなどが推察されています。福岡県内の他の遺跡もご紹介します。
- 10 「西鉄電車おもいでアルバム」
大田治彦/写真と文 2010年 榴歌書房 【686.2】
昔の天神の様子など、なかなかいいです。昭和54年まで、路面電車が走っていたんですね。



福岡の小説・作家

- 11 「自炊男子 「人生で大切なこと」が見つかる物語」
佐藤剛史/著 2011年 現代書林 【Nサ】
物語の舞台は、福岡の教育大学。食はてどうでもいいと思ってる主人公。9ヶ月通り、自炊し、いろいろな人と出会い、成長していきます。
- 12 「なぞとき遺跡発掘部 卑弥呼様はどちらにいますか？」
日向夏/著 2018年 小学館 【YSNヒ】
著者は福岡の方で、舞台はあさくら市です。ちよちよに出てくる福岡グルメに「あま、あかから」とニヤリとします。
- 13 「逃亡くそたわけ」
糸山秋子/著 2005年 中央公論新社 【Nイ】
百道の病院と脱走して、小石原に抜ける逃亡ルートは、ありありと目に浮かびます。
- 14 「道然寺さんの双子探偵」
岡崎琢磨/著 2016年 朝日新聞出版 【YSNオ】
福岡の有名なお菓子が2つ、でてきます。もちろし、梅ヶ枝餅も!! 大宰府天満宮の参道や三條の地名も!! ぐんと身近に感じられるミステリー小説です。

